

平成31年度学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校）

W05

目指す学校像	・地域に根ざし、高い志を持ち、社会に貢献できる生徒を育む学校
--------	--------------------------------

重点目標	1 ステップアップクラス編成を中心に、学力向上と進路実現を目指す 2 人間としての在り方生き方教育を進め、高い志を育成し、自己実現を目指す 3 開かれた学校として情報を発信し、地域に根ざした魅力ある学校を目指す
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 ステップアップクラス編成により生徒の多様な進路希望に応え成果を上げている。英語検定が定着し、上位級への合格が毎年続いている。長期休業中の進学補講も計画的に実施できている。第2学年のアドバンストクラスにおいては模試の全員受検等にも取り組み始めている。 【課題】 学習意欲を高め、学習習慣を確立させることが必要である。 新大学入試に対応するための研究を進め、方策を検討する。 新学習指導要領の研究と生徒の進路希望に対応できる教育課程の編成を検討し作成する。	生徒一人一人の進路希望に応え実現できる教育指導計画の検討に取り組む	①ステップアップクラス編成の改善に向けて検証を行う。 ②学校全体で英語検定を奨励し実施する。 ③早期から学習意欲を高めるため、1年生を対象とした学習ガイダンスを実施する。 ④進学意識を高めるため、進路指導部と学年が連携して模擬試験科目の事前事後指導を行う。 ⑤外部講師を活用し、新大学入試を学ぶ研修会を実施する。 ⑥目指す学校像を反映した教育課程を検討し編成する。	①検証をもとに改善に向けて具体的な検討ができたか。 ②上位級の合格者が増加したか。 ③学習ガイダンスが実施できたか。 ④事前事後指導を組織的に実施できたか。 ⑤新大学入試を学ぶ研修会が実施できたか。 ⑥教育課程を検討し編成できたか。	教育指導計画を立て、様々な手段を講じ実施した。 ①授業アンケートを実施・分析等により検討を進めている。 ②2級合格者は増加し、3級では取得率が増加した。また、上位級へ挑戦する生徒が増えた。 ③各教科で実施し、また、全体では外部講師を招き実施した。 ④学年と進路指導部が連携して事後指導を中心に実施した。 ⑤2月に実施する予定である。 ⑥教育課程小委員会で他校の教育課程を研究していたが、新校の開校計画により教育課程の検討が休止状況となっている。	A	学習習慣を確立させる取組を検討し実施する必要がある。 現在の本校にとっても新校が良いスタートを切るためにも進学実績を上げていく必要がある。 学習指導の幅を広げるため研究授業など教職員研修を実施するのも一つの方策である。 主体的・対話的で深い学びを実践するため探究的な学びを研究する。 新校のコンセプトを見据え新校につなげていく教育課程を検討し作成する。
2	【現状】 登校指導（毎月）や学年集会（各学期）での重点化した生徒指導により、生徒の整容について一定の改善がなされ、外部からの評価も高まっている。 大会実績を上げている部活動もあり、活気が出てきている。 【課題】 基本的な生活習慣をより一層定着させるために全職員で組織的に粘り強く指導をする必要がある。 学校活動のさまざまな場面で、あきらめない気持ちを涵養していく。	変化の著しい社会に対応できる力を付ける支援に取り組む	①全校で統一した基準による整容指導等を全教職員で行う。 ②面談等を行い生徒の実態を把握し、必要に応じ、適切に関係機関につなげる。 ③今年度、全学年で導入した手帳を活用する。 ④各行事を奨励し活気あるものとする。 ⑤部活動を奨励し効率的な活動を進める。	①年度当初の整容を維持できたか。 ②支援の必要な生徒をSC・SSW等の外部機関につなげられたか。 ③手帳を有効に活用できたか。 ④行事のねらいや計画どおりに実施できたか。 ⑤上位大会等に出場できたか。	あらゆる場面で適切な指導・支援に取り組んだ。 ①始業式・定期考査期間・登校指導等の年9回の整容指導により、当初の整容を維持している。 ②支援の必要な生徒をSC・SSWに適切につなぐことができた。また、学年と委員会が連携して特別支援教育コーディネーターにつなぐことができ、特別支援教育研修会も実施できた。 ③全学年での導入となり、進路行事等での活用が進んだが、クラスごとの取組差はある。 ④生徒会が中心となり計画的に進められ、また、保護者の協力もありさらに活気ある行事が実施できた。 ⑤2つの部活動で関東大会以上に出場することができた。	A	遅刻者を減らし、基本的な生活習慣を確立させるための具体的な取組を行う必要がある。また、整容指導については生徒指導部と学年が連携し粘り強く継続して取り組んでいく。 時代に合った指導を研究し効果を上げる方策を検討する。
3	【現状】 部活動での小中学校との連携やゴミゼロ運動など学校外で生徒が活動する機会をいただいている。また、算数ボランティアや理科実験教室を行い、地域に貢献している。生徒募集事業では、全教職員が協力して、本校の魅力ある取組を発信している。 【課題】 ボランティア活動への参加。 ホームページの更新を積極的に行い、さらに地域の新聞などを活用して、本校の魅力を発信する機会を増やす。そのために各分掌との協力体制をつくる。	地域との連携事業をとおり、学校の魅力発信に取り組む	①地域の行事・ボランティアの要請に応える。 ②生徒の学びを充実させるため、地域の人的資源を活用する。 ③学校だよりの公共施設等への配布、地域新聞への記事提供により学校情報を適時発信する。 ④ホームページ等を活用し保護者に向けて情報発信できるよう方法を検討する。 ⑤学校説明会の適切な時期を検討し内容の工夫を図り、意識の高い中学生の参加を促す。 ⑥管理職・中高連携委員を中心に塾等へ生徒募集を行う。	①地域の行事に参加できたか。 ②地域の人的資源を活用できたか。 ③学校だよりの配布、新聞社への記事提供ができたか。 ④具体的な方法が検討できたか。 ⑤⑥前年度より学校説明会等の参加者が増え、入試の倍率が1.20となったか。	校外での生徒の活動や学校説明会等を通じて学校の取組や魅力を発信できた。 ①算数ボランティア、市内小学校での陸上教室、ゴミゼロ運動、お琴教室、親子で学ぶ科学実験教室を実施した。 ②学習ガイダンス、進路ガイダンス、模擬面接で地域の方を招き指導をいただいた。 ③飯高だよりを発行し、行事や部活動での活躍を中学生に発信した。図書館の先進的な取組を地域新聞等に記事を提供した。 ④新たに一斉メールを導入し、適時に情報を発信した。 ⑤学校説明会を7回実施し、参加者は昨年度並みであった。3年生・部活動生徒の学校紹介等で本校の魅力を発信できた。志願者倍率は1.11倍となった。 ⑥塾へ資料提供を行った。	A	地域からの期待がさらに高まってきている。 地域ボランティアに積極的に参加し、地域貢献していきたい。 本校の取組や魅力を伝えるため、ホームページや地域新聞での情報発信をさらに活用したい。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和2年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・授業アンケート等を分析し、指導方法の研究を進めより良い授業を行ってほしい。 ・英検全員受検の成果があがっていると感じる。さらに進学等にもつながるようがんばってほしい。 ・飯能南高校との統合のことで、学校は混乱したと思うが、現在の取組が新校開校につながるようがんばってほしい。応援している。 ・達成度Aは妥当である。	
・以前と比べて服装等もだいぶよくなっている。登下校時では服装について改善しなければならないところはあるが、保護者とも協力して改善するよう進めてほしい。 ・今後も部活動の活躍を期待したい。 ・達成度Aは妥当である。	
・算数教室では、丁寧に見てもらって子どもたちも大変喜んでいて。積極的に参加する生徒が多くいると聞き、今後もさらに交流を深め続けていただくとありがたい。 ・市教委のボランティアに参加いただき大変助かった。今後もボランティア活動に生徒会をはじめ多くの生徒に積極的に参加していただくとありがたい。商工会議所がリニューアルするので作品展コーナーに文化部から出品してほしい。 ・達成度Aは妥当である。	